



ぽっかぽか



ひよこ組

日中はまだまだ日照りの強い日もありますが、朝夕は風が心地よくなってきましたね。これまで室内遊びの多かったひよこ組も、天気の良い日は少しずつ戸外へと出かけています。歩けるようになった子ども達は靴を履いて自由に探索を楽しみ、ハイハイをしている子たちは大人と一緒に移動しながら砂や葉っぱでの感触遊びを楽しんでいます。

また、先日の保護者会は多くのご参加、本当にありがとうございました！今月は保護者会でお伝えした生活面の中から『着脱』について改めてお伝えします。

頭から！

上着の着脱の際は大人がおでこのあたりまで被せた後、着る時は下に、脱ぐ時は上に引っ張るよう伝えています。また、顔を出すことをわかりやすく伝えられるよう「いないいないばあっ！」の声掛けを通して、子どもが自ら着脱できるように促しています。また、肘を大人が袖口を軽く引っ張ってあげることで、子どもが自分で肘を曲げて脱ごうとすることも増えています。

足元から！

ズボンを履く際には椅子に座って行ない、子どもが足を入れやすいように、大人がズボンの入り口を広げて足元へ近づけています。近づけると自分で足をあげて入れようとする姿が増えています。大人と一緒に足を入れた後は声を掛けながら子どもが自分でズボンを上げるのを待ちます。最後は子どもにつかまり立ちをしてもらい、大人が腰まで上げています。脱ぐ際は大人が膝まで下ろすと下に引っ張って自分で脱ごうとすることも増えてきました。

土踏まずから！

長久保公園へは必ず靴下を履いて出かけています。まずは靴下を自分で『脱ぐ』ことを促しています。脱ぐ際は、大人が土踏まずの辺りまで下し、つま先の方を触りながら引っ張って脱ぐことを伝えています。履く際には、ズボンと同様に入口を広げて足もとに近づけることで、自分で足をあげて入れようとする子も増えています。

やりたい！気持ちをつなげていくには？

子どもたちは少しずつ『自分でやりたい』気持ちが増えてきています。その気持ちを次の意欲へと更に繋げていけるよう、私たちは『待つ』ことを大切にしています。子どもたちがやりたい！と思えるまで急かさずその姿を見守り、子どもたちが自分でできるような環境を作りながら、繰り返し促しています。また「自分で出来たんだ」という実感に繋がるように、できた瞬間を見逃さずたくさん褒めるようにしています。今回の着脱以外にも、日常生活の中や遊びの中に、子どもたちが『できた』を感じられる瞬間は数多くあります。ぜひ、ご家庭でも余裕のある時には『待つ』と『褒める』をポイントに、お子さんとの『できた』の思い出をたくさん増やしてみてください♪